



人間の 心と身体を 科学する。

東北学院大学 人間科学部

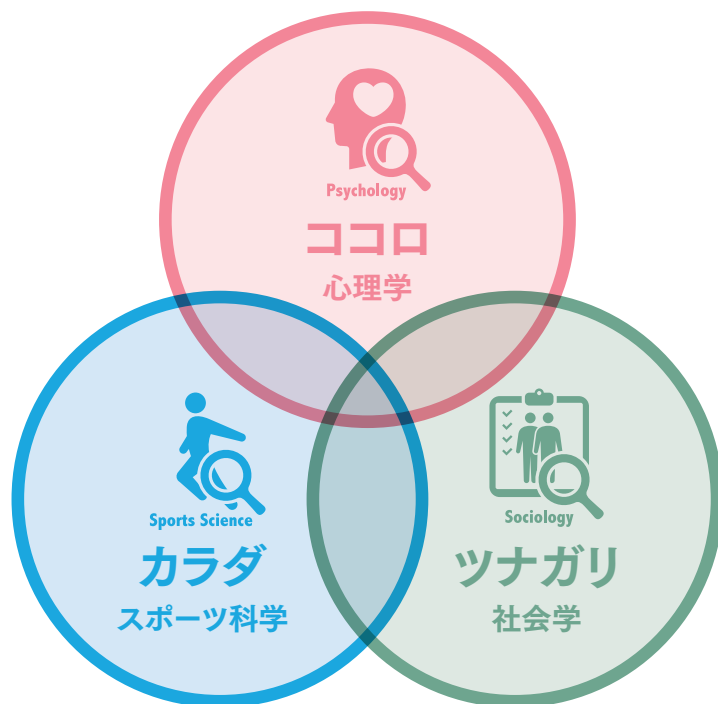
心理行動科学科

Department of Psychology and Behavioral Sciences
Guide 2026



Policy

ポリシー



人間生活の抱える種々の問題に現実的に対処すべく、
**人間を多角的・実証的に捉える力を備え、
健康的な生のあり方を追求する
人材を養成する。**

近年では身体的な健康のみならず、うつ病に代表される精神的な健康も問題視されています。また、相次ぐ震災や豪雨災害のみならず、コロナ禍の長期化で心と体の健康管理における心理学と行動科学の重要性が一層認識されるようになりました。

さて、人間の心を深く理解するにはどのような知識が必要でしょうか？人間の心を理解するには、心そのものに注目するだけではなく、心と密接につながる身体、そして心をもつ人同士のつながりが作り出す社会についても知る必要があります。本学ではこの視点に立ち、心理学、スポーツ科学、社会学の分野から多角的・実証的に、人間の心や行動を捉えると同時に、現代人が抱える様々な心身の問題に対処できる人材の育成を目指します。



学科長あいさつ

心理行動科学科長 萩原 俊彦 教授

現代社会は、AIやデジタル技術の恩恵を受ける一方、人間らしさを見失うリスクにも直面しています。スマホに注意力を奪われたり、SNSや検索エンジンは好みの情報ばかり届けてきたり…と、便利さと引き換えに「考える時間」を失いやすい時代ともいえるでしょう。こうした時代に、「心や行動」という視点から問いを立て、科学的に考えていくことは、複雑な現実を読み解き、未来の課題に挑む力を育む機会となります。「心や行動」には、それを司る人の「身体」や、人を取り巻く「社会」も深く関係してきます。心理行動科学科では、心理学の学びに加えて、スポーツ科学と社会学の視点から「身体」と「社会」についても学びます。私たちと一緒に、より良い未来を考えるための「知の力(知的体力・耐力)」を身につけていきましょう！

領域と区分 による 多角的かつ 有機的な学び

学びの特徴



3つの領域 による 専門的な学び

領域での学び

3つの領域からなる 多角的な学び

心理行動科学科では、心理学を中心に、スポーツ科学や社会学も加えた専門科目を数多く準備しています。そのため、人間の心と行動に関する様々な問題を多角的かつ実証的に分析・考察するための専門知識と技能を広く深く身に付けることができます。

1年次には3つの領域の入門にあたる講義を行います。2年次以降に専門的な講義や実験・実習を行いながら、3年次4年次には自分の研究テーマを設定し卒業研究に取り組みます。

3つの区分で領域同士の 有機的な関係を学ぶ

心理行動科学科では、心理学、スポーツ科学、社会学の授業科目を「臨床」「個人」「社会」という3つの視点で大別して配置しています。3つの視点から各領域の知的営みを見渡すことにより、領域同士の有機的な関係性も意識しながら学びを進めることができます。

臨床

心理的問題の理解と改善に関する科目を中心に学びます。

個人

個人内の心身過程に関する科目を中心に学びます。

社会

集団や社会における心の働きに関する科目を中心に学びます。



Psychology

心と行動の仕組みを理解する

心理学

心理学領域では、実験や調査といった科学的手法を用いて、人間の行動がどのような心の働きによって引き起こされているかを明らかにしていきます。また心理学と一言で言っても、社会・組織・パーソナリティ、知覚・認知、発達、健康・臨床などさまざまな分野があります。本学科ではこれらを幅広く学ぶことができます。



Sports Science

心身相関を理解する

スポーツ科学

スポーツ科学領域では、運動・スポーツが心と身体に及ぼす影響を実験や調査、データ分析を通じて明らかにしていきます。



Sociology

社会のありようを理解する

社会学

社会学領域では、様々な調査方法を駆使して、社会現象とそのメカニズム(因果関係)を明らかにしていきます。

Curriculum

専門教育カリキュラム ●…[必修]



専門 基盤科目	心理学概論● 臨床心理学概論●	社会学概論● 社会調査基礎論●	健康と身体活動の基礎A● 健康と身体活動の基礎B●
研究方法 科目	基礎統計学 心理学研究法	心理学統計法 社会調査法	社会統計学 多変量解析 運動学研究法 運動学統計法
実験・実習 科目	心理学実験 心理的アセスメント	社会調査実習A 社会調査実習B	運動学実験実習A 運動学実験実習B
演習科目	基礎演習A● 基礎演習B●	演習A● 演習B●	特殊研究 文献講読A● 文献講読B 卒業研究A● 卒業研究B●
臨床	障害者・障害児心理学● 人体の構造と機能及び疾病●	健康・医療心理学 福祉心理学	精神疾患とその治療 衛生公衆衛生学● 学校保健I● 学校安全及び緊急処置 学校保健II● 心理行動科学特殊講義A 心理学的支援法
個人	知覚・認知心理学 学習・言語心理学	感情・人格心理学 神経・生理心理学	発達心理学 意思決定の科学 スポーツ心理学I● スポーツ心理学II スポーツ生理学 運動方法学 心理行動科学特殊講義B
社会	社会・集団・家族心理学● 教育・学校心理学●	ジェンダーの社会学● 現代社会と心理●	産業・組織心理学 関係行政論 司法・犯罪心理学 スポーツ社会学 スポーツマネジメント 家族社会学 不平等の社会学 心理行動科学特殊講義C

教員紹介



神林 博史 教授
不平等の社会学

私たちの身の周りで起きる様々な現象は、社会のあり方と密接に結びついています。個人の心だけに注目するのではなく、人と人との関係や、ルールや制度の影響など、より広い視点から物事を考えるのが社会学の特徴です。あなたの問題は、社会の問題でもあるのです。

社会学では、社会の実態を捉えるために調査を重視します。心理行動科学科では、社会調査に必要な知識と能力を有することを示す「社会調査士」資格を取得できます。



穴戸 隆之 教授
保健体育科教育法(概論)

本学科では、スポーツ科学の専門科目と教職関連科目を履修することで、中高保健体育の教員免許を取得することが可能です。私は、教職関連科目で必修となる保健体育科教育法(概論)及び(理論)を担当します。保健体育科教育法の授業では、現行の学習指導要領に対応して、最新のICTを活用した体育の教授技術を習得することが可能です。スポーツ科学に精通し、ICT活用技術を身につけたこれからの体育教師を目指してみませんか？



平野 幹雄 教授
教育・学校心理学

臨床発達心理学を専門分野にしています。教育・学校心理学や障害者・障害児心理学などの講義を担当します。公認心理師や臨床発達心理士SVの資格を活かして、近隣市町村の保育所や放課後児童クラブ等の巡回相談を行っています。そうした経験に基づきつつ、心理学の視点から、現場の抱えている問題について学生の皆さんと一緒に学んでいくことができたらと思っています。



臼倉 瞳 准教授
感情・人格心理学

臨床心理士と公認心理師の資格を持ち、公認心理師資格取得に関わる科目も担当しています。感情・人格心理学の講義では、感情が生まれるメカニズム、感情の持つ機能のほか、性格(パーソナリティ)がどのように形作られ、どのように対人関係や健康と関連するのかなどを取りあげます。日常生活で体験したことを心理学の視点で捉え直し、その知識を今度は日常生活に応用してもらうという学びの循環を大切にしています。

Interview 学生インタビュー



大坪 世怜
宮城県
泉館山高等学校出身

私がこの学科を選んだ理由は、元々興味のあったスポーツ科学のほかに心理学、社会学を「臨床」「個人」「社会」の区分で関連付けて学べる点に魅力を感じたからです。また、心理学を学びながら「保健体育」の教員を目指せるため、身体と心の健康について深く学べることも理由でした。この学科は現代社会の問題に多角的にアプローチしていて、さらに異なる視点から興味のある分野を学ぶことで自分の世界が広がるのが非常に面白いと感じています。

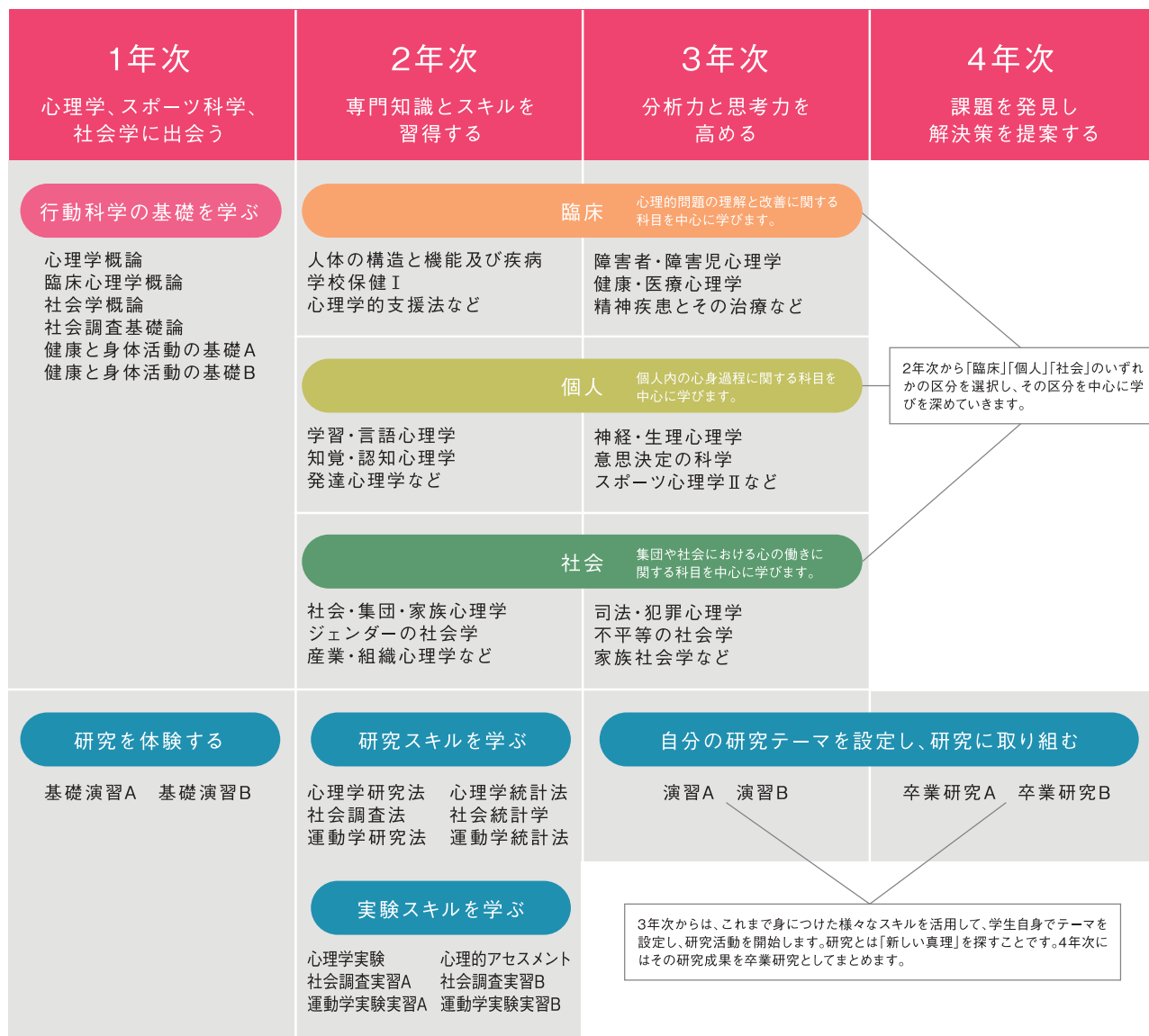


多田 朱里
宮城県
仙台二華高等学校出身

私はこの学科の「異なる分野の知識を通じて専門的かつ体系的に心理学を学べる」とこと、「授業内容が日常生活に直結する点」に魅力を感じています。また、心理関係だけでなく、社会調査士や保健体育の教員免許など、様々な資格を取得できるのも大きな魅力です。専門的な科目では、一般的な心理学に加えて、社会に関係する心理学の知識や、医療や福祉に関する臨床系の心理学、脳の学習機能や錯覚、感情に関する心理学、そして身体と健康に関する知識を学んでいます。

Curriculum Model

カリキュラムモデル



取得できる資格

- 公認心理師 ^{注1)}
- 認定心理士
- 社会調査士
- 中学校教諭一種免許状（保健体育）
- 高等学校教諭一種免許状（保健体育）

注1) 卒業後、大学院において省令で定める科目の履修もしくは省令で定められた施設において実務経験が必要となります。

求める人材像

- 人間の心や行動のメカニズムに興味がある
- 心のケアを仕事にしていきたい
- 子どもや高齢者など年代を問わずスポーツの指導をしてみたい
- 社会調査を仕事にしてみたい
- 体育教員になりたい

活躍の場 卒業後想定される進路

- 公務員
- 中学校教諭／高等学校教諭（保健体育）
- 大学院進学
- スポーツ指導員
- 心理に関する援助職
- 各種サービス業
（情報通信、宿泊・飲食、教育・学習支援、医療・福祉）
- 金融・保険業
- 卸売業
- 小売業
- 製造業 など

Q and A

Q1 心理行動科学科で取得できる資格はどのようなものがありますか？

心理行動科学科で取得できる資格は以下の5種類です。

◎公認心理師

人々の心の健康を支援する心理職の国家資格です。卒業後、大学院において省令で定める科目の履修もしくは省令で定められた施設において実務経験が必要となります。また、国家試験に合格する必要があります。

◎認定心理士

公益社団法人日本心理学会が認定する民間資格です。大学の学部で心理学に関して偏りなく学び、標準的な基礎知識と基礎技術を修得していることを認定するものです。

◎社会調査士

インタビュー調査やアンケート調査の方法を学び、統計や世論調査の結果を批判的に検討するなど、社会調査の現場に必要な能力をもった「社会調査の専門家」と認定される資格です。

◎中学校教諭一種免許状（保健体育）

◎高等学校教諭一種免許状（保健体育）

Q2 3つの区分とはどのような制度でしょうか？

みなさんの興味関心に合わせて体系的な学びができるよう、3つの区分を設定しています。2年次からはそれに対応したコースを選択し、コースの科目を中心に履修することになります。自身の興味のあるコースを選択しそれに含まれる科目を学修することで、心理学、スポーツ科学、社会学それぞれの領域同士の関係性を理解しながら学びを深めることができます。なお、コースは1年ごとに変更も可能です。

Q3 卒業後は専門的な仕事に就くことが多いのでしょうか？

心理学、スポーツ科学、社会学の専門的な仕事につくこともできると思います。一方で、本学科での学びはどの分野でも求められているものです。専門的な仕事のみではなく、サービス業や金融業などの民間企業、警察官や消防士を含む公務員など、多くの分野で活躍できることを想定しています。

Teaching Staff

教員紹介 分野／担当授業

天野 和彦 教授

スポーツ科学／スポーツマネジメント

井川 純一 教授

心理学／産業・組織心理学

岡崎 勘造 教授

スポーツ科学／学校保健Ⅰ・Ⅱ

加藤 健二 教授

心理学／知覚・認知心理学

金井 嘉宏 教授

心理学／心理学的支援法

神林 博史 教授

社会学／不平等の社会学

坂本 譲 教授

スポーツ科学／衛生公衆衛生学

櫻井 研三 教授

心理学／知覚・認知心理学

穴戸 隆之 教授

スポーツ科学／保健体育科教育法(概論)

仙田 幸子 教授

社会学／家族社会学

高橋 信二 教授

スポーツ科学／スポーツ心理学Ⅰ

萩原 俊彦 教授

心理学／発達心理学

平野 幹雄 教授

心理学／教育・学校心理学

福野 光輝 教授

心理学／社会・集団・家族心理学

臼倉 瞳 准教授

心理学／感情・人格心理学

東海林 渉 准教授

心理学／健康・医療心理学

吉田 雄大 准教授

スポーツ科学／運動方法学

渡辺 健太郎 准教授

社会学／社会調査基礎論



東北学院大学

<https://www.tohoku-gakuin.ac.jp>



学科オリジナル
Webサイトが
公開されました！